

『土木技術映像の100年－土木技術映像100選ガイド』の出版について

(一財) 全国建設研修センター 正会員 ○榊山 清人
(公益社団法人) 土木学会附属土木図書館 正会員 坂本 真至
(特定非営利活動法人) 建設教育研究推進機構 フェロー会員 大野 春雄

1. 背景及び目的

土木学会土木技術映像委員会では、官公庁、企業、各種団体などで数多く制作されている土木技術に関する映像作品を、企画・表現・内容・作品など多様な視点から評価し、一定の価値を有すると認められる作品を選定する「土木技術映像選定制度」を設けている。当委員会では選定審査会を設け、応募作品に対して随時審査を行っている。選定映像は、2001年からスタートした一般公開の映画会「土木学会イブニングシアター」において(2ヶ月に1度のペースで開催(平成26年3月現在78回))随時上映し、学会員のみならず一般の方々にも好評を得ている。これまで上映した選定映像は100作品を超え、上映ごとに実施するアンケートは貴重な意見である。この「イブニングシアターアンケート」を取りまとめた資料集は、Evening Theater Data Bookとして現在3冊に至っている(非売品)(写真-1)。

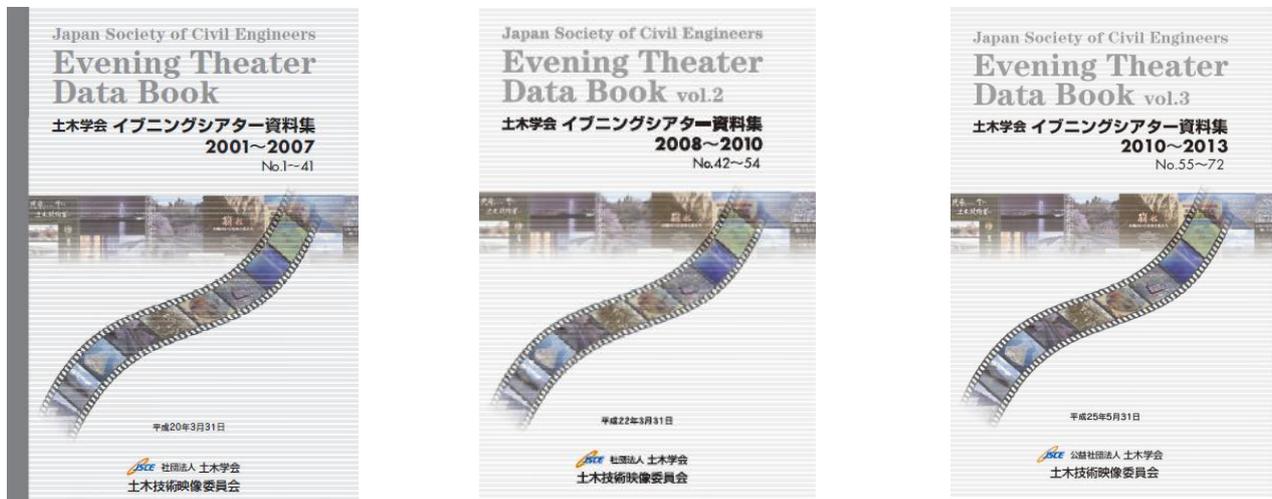


写真-1 Evening Theater Data Book vol.1～vol.3^{注)}

Data Bookは、他の委員会や支部などで上映作品を選ぶ際に閲覧する場合があるが、情報量が多い、どの作品がいいのかがわかりづらいという意見があり、筆者らはそれを是正してより多くの人たちに活用してもらう本を以前より考えていた。その折に、タイミングよく土木学会百周年記念出版事業の企画があり、審査を経て出版の許可を得た。今回出版予定の「土木技術映像の100年－土木技術映像100選ガイド」は土木学会100周年という節目にあたり、100にこだわった記念出版であり、土木技術映像委員会が提供する映像配信システムとの連動も考えている。

2. 構成

構成は第1部では年代ごとの映像の特徴を執筆者にお願いした「土木技術映像の100年」(図-1)、第2部では、映像委員会委員が3～4程度選んで担当した、「土木技術映像100選」としている。

第1部の原稿については、現段階では詳細は未定(6月をめどに執筆を順次依頼して行く予定)であるが、社会的背景や分野別・構造物別の特徴(例えば、ダム、橋梁、高速道路など時代に即して特定の構造物に関する記録映像が増減する傾向があるといった)などの分析を行ってもらい、映像と時代区分の関係などをできるだけ明確にしたい。

キーワード 土木技術映像, 出版, 土木学会百周年, 土木学会選定映像

連絡先 〒187-8540 東京都小平市喜平町2-1-2 (一財)全国建設研修センター tel.042-300-6866 k_masuyama@jctc-g.com

第2部については、作品名、時間、製作年などの書誌事項のほか作品概要と解説（おすすめポイント）を映像委員会委員が書き下ろし、またこれまでに寄せられたアンケートの中から代表的な意見を取りまとめて記述している。100本の作品に対し1本1ページでフォーマットを予め作成しておき、同じような書式となるようにした。特にアンケートについては、賛否両論を併記するよう委員にお願いした。今後、さらに詳細をみて書式や文章表現を合わせる作業が発生すると思われる。

3. 映像を出版する難しさ(著作権)

土木技術選定映像作品は予め、土木学会において会員や関心のある方々への貸出や土木学会が行う上映会などの活動に使用することについて、事前の手続きをとっている。しかし、出版については別の問題が生じる。選定された作品は紹介のためにパッケージ写真やイメージ画像などを学会が無償で利用することは問題ないが、本の出版に対しては代価が生じるため作品によっては許可を得なければならなくなる可能性がある。また連動する映像配信システムでの公開に関しても注意する必要がある。これについては、著作権に詳しい弁護士による研究セミナーなどを開催して、クリアすべき問題をあきらかにする予定である。

本論文では記載できないが、詳細については論文発表時に報告したい。

4. まとめ

土木に関する映画(映像)を紹介する出版本は今までにないものと思われる。学校の授業や一般の方たちにも是非活用されるようなバイブル的な本を目指して努力しているつもりである。しかし、特に教育分野では授業時間に制約があり、必要な分野のみ(例えば地震の液状化シーンのみ)の映像シーンが必要とされる場合が存在するのは事実である。この本では、シーンごとの時間を図り、何の授業、何の研修に役立つかは明確に分析していない。本を手にとってもらい、作品を決定し、映画鑑賞してどの部分を使用するかが必要な作業になるのが課題になる。

全国大会の時にはほぼ完成に近く全容が明らかになっていることだと思う。是非、手に取っていただいて購入して頂ければ幸いである。

注)

土木技術映像委員会の活動成果として以下の3冊が発行されている。

- ・土木学会イブニングシアター資料集 Evening Theater Data Book, vol.1,2001~2007,no.1~no.41,2008,113p
- ・同上,vol.2,2008~2010,no.42~no.54,2010,191p
- ・同上,vol.3,2010~2013,no.55~no.72,2013,176p

これまでに開催された土木技術映像委員会主催のイブニングシアターや全国大会映画会、一般市民向け特別上映会などの情報を網羅しており、ポスター、開催情報、参加者統計、学会誌記事などに加え、各回のアンケート結果を収録している。

土木技術映像の百年 —土木技術映像100選ガイド— 目次	
はじめに ～土木技術映像とは 土木の100年、土木映画の100年～	
I. 土木技術映像の変遷史	
1. 戦前期	
1.1 大正前期	
1.2 大正後期(関東大震災, 烏山頭ダム)	
1.3 昭和初年代(震災復興, 東京地下鉄, 万代橋, 十三大橋)	
1.4 昭和10年代(勝鬨橋, 水豊ダム, 鴨緑江ダム)	
1.5 土木学会文化映画委員会の活動	
2. 戦後復興期	
2.1 昭和20年代	
2.2 昭和30年代	
3. 高度成長期	
3.1 昭和40年代	
3.2 昭和50年代	
4. 爛熟期～低成長期(バブル期～バブル以後)	
4.1 昭和から平成へ	
4.2 平成10年代から現在へ	
II 土木技術映像セレクト100 イブニングシアター上映作品から100本を選出	

	委員おすすめ度 ★★★★★
	制作年: 2008年 上映時間: 30分 土木図書館登録No.: V-470 3. 首都高速道路を守れ 副題: 疲労き裂対策3000日の軌跡 【作品情報】 企画: (財)首都高速道路技術センター 制作: NHKエンタープライズ
【受賞歴】 第23回映画コンクール部門賞(技術映像部門)	【委員のおすすめポイント!!】 総延長283km(2005年現在)の首都高速道路の鋼製橋脚において平成9年に500基を超える多数のき裂が発見されてから8年間に渡って行われた金属疲労き裂に対する補修・補強対策を究明に記録した技術映像。複雑な構造に対応したき裂の調査・試験から補修・補強対策に至るまでのプロセスを余すところなく紹介。 今回の補修記録映像に範を示し、現場に直接カメラを持ち込んでの実写、高度な技術を平易に説明するためのOGの駆使(ナレーションの工夫)などの表現により、土木技術者・道路管理者のみならず一般の方々にも、補修対策の必要性・重要性を理解しやすく伝える技術映像。
【参加者アンケートより】 ◎理解できた! *CGを使った説明、素人の私に理解が良く理解できた。今後首都高速道路を利用するとき、この映画のことを思い出し、感謝しながら利用させて頂きたい。 ×説明を入れて! *一般の人には、疲労の意味が良くわからなかったかもしれない。アニメなどを用いて、基本的なことの説明をもう少し入れたらいい。 ◎教材にして! *地味であるが点検に多くの時間をかけ、診断評価更に補修計画を造り上げていく過程が良くわかる。橋梁者手技術者に対する教材としていただきたい。 ◎感動した!アビールをもっと *我々の生活の安全を陰で支えていただいていたことがわかり感動した。補強工事には色々なパターンがあり、日々研究されている様子など勉強になった。終わりがない作業でこうして安全が守られていることをもっと世間にアビールしても良いのではないかと思う。 ◎痛感した! *これまでの技術の空疎で発生した老朽化の元凶に対して、土木技術はどのように対応すべきか、これからの日本の土木技術・業界の有り様を示唆していると感じた。	

図-1, 2 目次&100選のイメージ